

2021 年度秋季展「王朝文化（ロイヤリティ）へのまなざし—戦前期女子教育における—」
《関連イベント》オンラインフォーラム

「戦前期女子高等教育における教育標本」要旨集

講演①

『資料を後世に伝える—京都府立女子専門学校と京都府立大学女子短期大学部—』

森 理恵（日本女子大学）

武庫川女子大学総合ミュージアム所蔵の京都府立女子専門学校関連の資料は、有職人形、裁縫教育関連資料、郷土資料の3つに分けられる。

有職人形は、京都府立女子専門学校（1927-1951）文学科の科目「国語」または「歴史」の授業で使用されたものと思われる。なお、「国語」は1933年より家政科でも開講されている。

裁縫教育関連資料は、同校の「裁縫」の授業で製作され、使用されたものと思われるが、「裁縫」は理学科家政科→家政科裁縫科・家事科→被服科の正規科目であり、文学科の課外科目であった。なお、資料の中には、同校を受け継いだ京都府立大学女子短期大学部（1951-1998）の家政科→被服科→生活文化科で製作され使用されたものも含まれる。（「→」は改編により名称変更がなされたことを示す）

郷土資料は、授業で使用された教育標本ではなく、1935～38年に課外活動のような中で収集されたものである。

京都府立女子専門学校で使用された多くの資料は、同校が1951年に閉校し、その主要部分が京都府立大学女子短期大学部へ引き継がれるなかで、さらには、同短期大学部が1961年に桂校地から下鴨校地へ移転するなかで、廃棄等の処分も行われてきた。しかし上記の3資料は、2010年まで下鴨校地で守り伝えられてきた。ただし関係者が物故されるなか、その経緯がわかりにくくなっているのが現状である。

2021 年度秋季展「王朝文化（ロイヤリティ）へのまなざし―戦前期女子教育における―」
《関連イベント》オンラインフォーラム

「戦前期女子高等教育における教育標本」要旨集

講演②

『島津製作所標本部の展開と実態』

川勝 美早子（島津製作所 創業記念資料館）

（株）島津製作所は、現在、精密機器メーカーとして分析計測機器、医用機器、航空・産業機器を中心に、次世代医療、産業計測、環境エネルギーなど幅広い事業を展開しているが、その創業は、1875（明治8）年に初代島津源蔵が教育用理化学器械の製造業を興したことから始まる。初代島津源蔵は、京都府が勧業政策の拠点として開設した勧業場や京都舎密局に隣接した一角で、家業である仏具の鋳物業を営んでいたが、お雇い外国人のヘールツから冶金術を学び輸入された教育用理化学器械の複製を始め、さらにワグネルの指導により事業を発展させた。

標本部は、1895（明治28）年に初代島津源蔵の長男である二代目島津源蔵が新設した。理化学器械とは製造技術的にも全く異なった事業であり、当初の経緯については明らかではないが、京都帝国大学や京都高等工芸学校などの教授らを顧問に迎え、動物学、生理学、植物学、鉱物岩石地質学、地理学、歴史学など多品種な標本製作に取り組み、事業を拡大していく。さらに、1930（昭和5）年には、洋装マネキンが製品ラインナップに加わり独自の発展をたどる。しかし、戦時色が深まる1944（昭和19）年8月に標本部は閉鎖となり、1948（昭和23）年、島津製作所から分離独立し、京都科学標本（株）が設立された。

2021 年度秋季展「王朝文化（ロイヤリティ）へのまなざし―戦前期女子教育における―」
《関連イベント》オンラインフォーラム

「戦前期女子高等教育における教育標本」要旨集

講演③

『昭和初期郷土教育実践における資料の位置づけ

―京都市学校歴史博物館所蔵資料を例に考える―』

林 潤平（京都市学校歴史博物館）

京都府立女子専門学校旧蔵の有職人形・郷土人形の歴史的な価値を考える際に、当時の郷土教育実践との関係を検討しなければならないことは、すでに先行研究によって明らかにされています。また、その際とくに重要となるのは、この郷土教育運動において、人形や標本などがどのような存在と考えられていたか、つまり郷土教育実践のなかで「資料」がどのように位置づけられていたか、という問題です。しかし、これまで郷土教育運動は様々な観点から検討されてきたにもかかわらず、この運動のなかで「資料」がどのように位置づけられ、活用されてきたのか、詳細な研究がなされないままでした。また京都府立女子専門学校の旧蔵資料を吟味する際には、郷土教育運動のなかでも、とくに京都における運動のありようを知っておいた方がいいことは、ここで言うまでもないことです。ただ、この「京都における郷土教育運動」という問題についても、とくに戦前期の様相については、その運動の全体像が十分に把握されていない、というのが現状です。

そこで本講演では、京都市学校歴史博物館に収蔵されている資料を主な分析対象とし、上記の問題について考察を試みてみることによって、京都府立女子専門学校旧蔵資料の意義をより幅広い観点から検討する、様々な材料のあぶり出しと提供を目指します。